
第五次昭島市総合基本計画策定
チームあきしま ワークショップ検討報告書
～ 政策指標について～

平成22年7月
チームあきしま

1 検討経緯

平成 23 年度からスタートする第五次昭島市総合基本計画の基本構想策定にあたり、基本計画素案に位置付けた政策指標について検討するため、チームあきしまメンバーによるワークショップを開催しました。

回	日時	内 容
第 1 回	平成 22 年 6 月 23 日	「政策指標は必要か？」 検討内容の発表、検討、発表
第 2 回	平成 22 年 7 月 6 日	「基本計画素案における政策指標は適切か？それに替わるものは何か？」 検討内容用の発表、検討
第 3 回	平成 22 年 7 月 22 日	「基本計画素案における政策指標は適切か？それに替わるものは何か？」 検討、とりまとめ

2 検討結果

第 1 回目のワークショップでは、政策指標の必要性について、意見を出し合い、最終的に各グループとも必要であると決定しました。そして、2、3 回目では、基本計画素案に位置付けた具体的な指標について意見交換を行いました。その結果は次頁以降のとおりです。

■ 討議の様子



■ 発表の様子



3 政策指標の必要性について

	作業スペース(付箋による貼り出し)			とりまとめ
	《必要》		《不要》	
B グループ	・目標が具体的になる ・検証がしやすい、できる ・達成率が分かりやすい		・財政状況に左右されてしまう(道路延長) ・数値化できるものしか入れられない ・マイナス要因の指標の目標値として具体値を入れるのがどうなのか ・総合基本計画外で下位計画を策定(3～5年で見直せる) ・短期間での目標が立てられない(取り込めない) ・指標にすると具体化しすぎて小回りがきかない	指標は必要である。しかし、不要でとりあげた項目を改善するような手法を基本計画に盛り込むべきである。
C グループ	・人事異動があっても、目標が明確 ・目標値がないと実績の判断ができづらい ・目標値があることによって、向上意識が高まる ・具体的な目標としやすい ・行動のプランが立てられる(立てやすい) ・外部から達成度が確認しやすい ・長期的な計画のプラン、(年度を越えての)スケジュールが立てられる	《中立》 ・指標対象の設定理由や基準が不明 ・目標値の設定がアバウトだと意見がない ・細かすぎる設定は柔軟な行政を阻害する ・目標値があっても各職場がそれを意識して仕事をしているか疑問	・目標値以上を目指す意欲が沸きにくい ・目標値があるとプレッシャーになる ・目標値の設定基準が理解しにくい ・数値化する必要がない項目もある ・社会の変化に対応しにくい(数字が固定)	指標は必要である。しかし、項目の検討が必要。より良くするためには、複数型(実数、割合の両方を掲載)なども検討することが必要である。
D グループ	・事業達成の目安になる ・指標→目標 ・目標値があると管理しやすい、業務の担保性 ・他の自治体との比較対象になる ・市の現状が客観的になる ・予算を組むため		・目標の立て方によっては実現性が伴わない ・目標値に縛られる ・目標の立て方に根拠が薄い ・数値化できない指標があるのでは ・数値化がなじまないものは？ ・簡易なアンケートも取り入れていくべき	指標は必要である。しかし、指標がすべて上向きにした場合、上向きがいつまで続くのか疑問である。また、数値に代わるものとして「適正な値を目標」というものがあっても良い。

4 政策指標の適切性について

※ 指標の可否欄について ○＝概ね妥当 △＝検討の可能性あり ×＝検討が必要

(1) 第 1 章 心ゆきかう あきしま (明るい地域社会の形成)

		指標名	現状値	目標値 (H27)	目標値 (H32)	指標の 可否	理 由	代替指標(指標名、定 義、目標値等)
1 人と人をつなぐ(コミュニティとネットワークの推進)	(1) コミュニティ	地域活動に参加している市民の割合	44.70%	50%	55%	○		地域管理のコミュニティ施設を増やす コミュニティ協議会を増やす
		昭島ボランティアセンターの登録団体数	67 団体	80 団体	100 団体	△	団体数だけでなく、人数も考慮した方が良い	
		アダプト制度の参加団体数	34 団体	40 団体	50 団体	○		
	(2) 男女共同参画社会	男女の地位が対等になっていると思う市民の割合	44.90%	50%	65%	△	客観的な指標でない	
		昭島市の審議会の委員等における女性の割合	32.00%	35%	40%	○		
	(3) 国際化	市のホームページ(英語版)への年間アクセス件数	開設に向けた検討中	5,000	10,000	△	国際化＝英語だけではないので、複数言語開設してはどうか？	
	(4) 情報化	市ホームページへの年間アクセス件数	390,106 件	450,000 件	500,000 件	○		
2 ともに守る(安全・安心の確保)	(1) 防災	災害に対して何らかの備えをしている人の割合	77.20%	80%	85%	△	「何らかの」が抽象的なので	災害危険箇所の面積を減らす 公共施設の耐震化の割合
	(2) 防犯	刑法犯認知件数	2,020 件	1,950 件	1,900 件	○		
	(3) 交通安全	交通事故発生件数	471 件	450 件	425 件	○		

(2) 第 2 章 とともに支え合う あきしま (健康と福祉の充実)

		指標名	現状 値	目標値 (H27)	目標値 (H32)	指標の 可否	理 由	代替指標(指標名、定 義、目標値等)
1 心とからだを支える(健康づくりの推進)	(1)健康・医療	健康教育事业参加者数	1,337名	1,500名	1,800名	△	事業数を増やさなくては、参加者数は増えないのでは？	
		予防接種の接種率	78.50%	 83？	88.00%	○		
		各種がん検診の受診者数	8,806名	 12,000？	16,000名	○		
	(2)保険・年金	国民健康保険税(現年度分)の収納率	87.20%	89.00%	92.00%	×	該当者の加入率では？ (心とからだを支える項目)	年金の項目は？
		国民健康保険加入者の特定健康診査受診率	44.70%	65.00%	65.00%	○		
2 地域で支え合う(地域福祉の充実)	(1)児童福祉	保育園の定員数	2,467名	2,530名 	適切な水準の維持	○		4館構想は？(児童館)
		学童クラブの定員数	940名	1,050名 	適切な水準の維持	○		
	(2)高齢者福祉	要介護認定者のうち施設・居住系サービスの利用者の割合	36.00%	37.0%以下	37.0%以下	○		
		介護保険施設の利用者のうち重度者(要介護4又は5の認定者)の割合	48.70%	70.0%以上	70.0%以上	○		
	(3)障害者福祉	年度内に一般就労へ移行した障害者数	20人	22人	24人	○		バリアフリー化は？
	(4)生活の支援・保護	生活保護の廃止件数	116世帯	130世帯	150世帯	×	廃止の中でも自立した件数が多いのでは？	

(3) 第 3 章 未来を育む あきしま (教育・文化・スポーツの充実)

		指標名	現状値	目標値 (H27)	目標値 (H32)	指標の 可否	理 由	代替指標(指標 名、定義、目標値 等)
1 ともに育む (学校教育の充実)	(1) 幼児教育	就学前に保育園 や幼稚園などに 入園している児童 の割合(3 歳～5 歳)	90.60%			○		
		育児講座の参加 者数	610 人			△	育児講座は学 校教育に該当 しないものもあ る	
	(2) 学校教育	家庭学習の習慣 が身についている と回答した児童・ 生徒の割合	小学校	66.40%			○	
			中学校	37.90%			○	
		相談できる先生が いると回答した児 童・生徒の割合	小学校	52.90%			○	
			中学校	35.50%			○	
		学校で学んだ食 事や栄養につい ての知識を日常 生活で活かしてい ると回答した児 童・生徒の割合	小学校	60.60%			○	
			中学校	43.80%			○	
2 ともにあゆむ (青少年の育成)	(1) 青少年の健全育成	青少年フェスティ バルの参加者数	21,000 人			○		
		昭島警察署によ る不良行為少年 の補導数	702 人			○		

		指標名	現状値		目標値 (H27)	目標値 (H32)	指標の 可否	理 由	代替指標(指標 名、定義、目標値 等)
3 「あきしまらしさ」を築く (市民文化・学習・スポーツの推進)	(1)生涯学習	各種学級・講座の 参加者数	市民講座	140 人			○		
			市民大学	310 人			○		
			地域公民館事業	455 人			○		
	(2)図書館活動	市民の登録率	22.80%				○		
		市民1人あたりの 貸出冊数	6.1 冊				○		
	(3)芸術・文化	この1年間に、音楽・演劇・美術などを外出して鑑賞したことがある市民の割合	46.90%				○		
		市民文化祭の参加者数	16,659 人				○		
	(4)スポーツ・レクリエーション	週1回以上スポーツ・レクリエーションを行っている市民の割合	36.50%				○		
	(5)文化財	郷土資料室の入場者数	581				○		

(4) 第 4 章 環境をつなぐ あきしま (循環型社会の形成)

		指標名	現状値	目標値 (H27)	目標値 (H32)	指標の 可否	理 由	代替指標(指標 名、定義、目標値 等)
1 ともに保つ (生活環境の維持・向上)	(1)生活環境	公害苦情相談受付件数	116 件			○		
		公共用水域、大気、交通騒音における環境基準の達成度	公共用水域 93.3%		公共用水域 100%	○		
			大気 100%		大気 100%	○		
			騒音 87.5%		騒音 100%	○		
		市内クリーン運動に参加した市民の数	2,901 人	3,800 人	5,000 人	○		
2 水と緑を守る (水と緑の保全・再生)	(1)自然環境	市域のみどり率	44.32%	45%	45%	○		
		保存樹木の数	117 本	125 本	150 本	○		
		水辺景観整備延長(下の川、水辺の散歩道、福島景観)	1,608m		3,000m	○		
		一般家庭・民間事業所に対する雨水浸透施設助成数	232 基		600 基	○		
		公有化等崖線緑地面積	10,457 m ²		15,000 m ²	○		
3 未来につなぐ (地球環境の保全)	(1)地球環境	昭島市の公共施設が排出する温室効果ガスの排出量(二酸化炭素換算)	11,377,605 kg-CO ₂			○		
		市施設における太陽光発電施設の能力	10 kwh		150 kwh	○		
	(2)ごみ処理	家庭系ごみの排出量(1日1人当たり)	658g/人日		573g/人日	○		
		事業系ごみの排出量	8,635t/年		5,700t/年	○		
		リサイクル率(総資源化率)	35.70%		49.00%	○		

(5) 第 5 章 基盤を築く あきしま (快適な都市空間の整備)

		指標名	現状値	目標値 (H27)	目標値 (H32)	指標の 可否	理 由	代替指標(指標 名、定義、目標 値等)
1 ともに築く(都市基盤の整備)	(1) 道路	都市計画道路の執行率	61.40%		71.00%	○	計画道路を見直して分母を下げても大切なのではないだろうか。	
		歩道の延長距離	69,658m	72,000m	74,500m	△	具体的な数値を設定するのではなく上矢印に変えてもよいのでは。 危険な箇所から優先順位をつけていくべきではないだろうか。	
	(2) 公園	市民一人当たりの公園面積	9.97 m ²		10.5 m ²	○		
		都市計画公園の開設面積	83.28ha		85.0ha	○		
	(3) 上水道	市民一人当たりの1日水道使用量	327ℓ		290ℓ	○		
		水道管の耐震化率	19.20%		30%	○		
	(4) 下水道	公共下水道雨水幹線整備率	70.80%		90.00%	○		
2 安心とやすらぎを築く(市街地の整備)	(1) 公共交通	鉄道各駅の1日あたりの乗降客数	189,850人	195,000人	200,000人	△	具体的な数値を設定するのではなく上矢印に変えてもよいのでは。	
		昭島のバス路線の一日あたりの利用者数	17,572人	18,000人	18,500人	△		
	(2) 市街地整備	中神土地区画整理事業(第二工区 駅前ブロック)の進捗率	道路整備 85.4%	100%	—	○		
			建物移転 77.2%			○		
	(3) 駅前整備	立川基地跡地昭島地区整備事業の進捗率	—		100%	○		
		駅前広場の整備(整備済数/全体数)	4/7		6/7	○		

		指標名	現状値	目標値 (H27)	目標値 (H32)	指標の 可否	理 由	代替指標(指標 名、定義、目標 値等)
	(3) 住宅	市民の定住意識 (昭島に住み続けたいと思う市民の割合)	74.90%		85.00%	○	住宅という分類に入れることに疑問がある。住宅政策としての位置付けになっている。	
		シルバー住宅の戸数	156 戸		180 戸	○	目標値が小さ過ぎる気がする。	
	(4) 都市景観	昭島のまちなみを美しいと感じる市民の割合	25.00%		35.00%	○	7 章のテーマに入れた方がよいのでは。	

(6) 第 6 章 躍動する あきしま (産業の活性化)

		指標名	現状値	目標値 (H27)	目標値 (H32)	指標の 可否	理 由	代替指標(指標 名、定義、目標 値等)
1 賑わいをつなぐ(活力ある産業の振興)	(1) 産業力	昭島の事業所数	3,927 事業所			△	市として何か具体的にできる政策指標にはならないのでは。	
		昭島の事業所の従業者数	47,854 人			△	市として何か具体的にできる政策指標にはならないのでは。	
	(2) 商工業	昭島の小売店の年間販売額(百万円)	119,857			△	市として何か具体的にできる政策指標にはならないのでは。	
		昭島の製造業の製造品出荷額(百万円)	372,657			△	市として何か具体的にできる政策指標にはならないのでは。	
	(3) 農業	認定農業者数	34 人			△	経営耕地面積が増えないのに、認定農業者を増やすのは市の施策として適切なのか。	
		経営耕地面積	5,167a			△		
	(4) 観光	昭島市民くじら祭りの参加者数	72,000 人			○	市のロゴマークとして“くじら”を正式に認定したほうがよいのでは。観光を本格的に推進していくようなセクションを作っていく方がよいのでは。	
2 ともにたたく(勤労者の福祉向上)	(1) 勤労者	勤労市民共済加入者数	1,957 人			○		
3 豊かに暮らす(消費生活の充実)	(1) 消費者	消費生活相談件数	700 件	500 件	300 件	○	相談件数を減らすことが目標になるのは目標数値として適切なのか？必ずしも相談件数が減ればよいというわけではない。相談をしやすくなると件数が増えるのでは？見る人によって、誤解を生まない指標にしていべきではないだろうか。	
		クーリングオフ制度を知っている市民の割合	94.20%	100%	100%	○		

(7) 第 7 章 計画の実現のために

		指標名	現状値	目標値 (H27)	目標値 (H32)	指標 の可 否	理 由	代替指標(指標名、定 義、目標値等)
計画 の実 現 の た め に	(1) 情報の共有と協働の推進	市政が市民の声を反映していると思う市民の割合	20.4%			○		
		審議会等における公募市民の割合	6.9%	15% 	20%	○		
	(2) 地方分権と広域的な連携・協力	職場外(派遣)研修の参加者数	363 人			△	職員数の変動により、数での目標値は適当ではない	参加者数→参加者率に 職員数は減っていくの で、人数では指標化の意 図を表せない
		小学生国内交流事業の参加者数	15 人			×	3章2(1)での指標が妥当	
	(3) 自主自立による行財政運営	市役所の窓口サービスを普通又はそれ以上と思う市民の割合	74.5%		100% 	○		
		経常収支比率	98.1%			○		
	(4) 憲章・都市宣言趣旨の推進	現在の暮らしに満足している市民の割合	73.3%			×	暮らしに満足では、テーマが大きすぎる	「昭島に住み続けたい人の割合」の方が良い